

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目150分

## 解答形式

記述, 論述, 選択

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は例年通り3題で問題文の分量も昨年並みであったが、論述問題の指定行数が昨年の34行程度から23行程度と減少したことから、全体としての分量は昨年よりやや減少した。一方、昨年同様にやや難度の高い考察問題が多く出題されており、難易度は昨年並みであったと考えられる。

## 出題の特徴

出題の多くは考察問題であるが、生物学用語の穴埋めや文章選択型の知識問題も出題される。例年、指定行数が1～3行程度の論述問題が多い。

## その他トピックス

第3問の間E・Fは、2020年度冬期講習 東大生物の5-3の間F・Gとズバリ！的中。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	記述 論述 選択	細胞 遺伝子 代謝	生物	I リード文の内容から、トリグリセリドを原料としてグルコースを合成していることを読み取る必要がある。	標準
第2問	論述 選択 選択	植物の反応 細胞	生物	G 図2-5において、接触刺激を繰り返し与えると、風刺激を繰り返し与えたときと同様に、その後の風刺激に対する反応が低下していることから読み取る。	標準
第3問	記述 論述 選択	生殖 個体群 進化 体内環境 動物の反応	生物 基礎 ・ 生物	D 突然変異が生じた遺伝子をaとすると、F1世代ではAA:Aa:aa=1:2:1、F2世代ではAA:Aa:aa=3:2:3、F3世代ではAA:Aa:aa=7:2:7となる。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

- ・教科書レベルの基本的な知識を身につけ、その内容を正確に論述できるように練習を重ねよう。
- ・普段の学習から、丸暗記ではなく論理的に考える癖をつけよう。
- ・過去問などの演習を通して、東大型の問題に慣れておこう。
- ・生物学の最新のトピックスに関心をもち、生物学的な内容を扱ったニュースなどにも目を通しておこう。